

科目名	現代ファイナンス論Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Theory of Modern Finance II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位	
授業のテーマ	複雑な金融取引における合理性と、基本的な分析技法を中心に学習する。			
授業概要	現代ファイナンス論Ⅰの学習内容を深めて、より専門的かつ実践的に学習する。			
到達目標	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基にして主体的に考えることができるようになること。			
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。			
履修条件	現代ファイナンス論Ⅰと金融機関論を履修済みか、または同時履修して欲しい。			
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。			
第1回	テーマ：ファイナンスの面白さ モラル・ハザード、リスクヘッジ、投資行動と心理			
第2回	テーマ：投資の評価方法① 収益率の比較か？それとも初期投資額の比較か？			
第3回	テーマ：投資の評価方法② n 期間を想定した2つの評価方法			
第4回	テーマ：投資の評価方法③ 正味現在価値法			
第5回	テーマ：投資の評価方法④ 内部収益率法			
第6回	テーマ：投資の評価方法⑤ ゴールシークを用いた計算方法			
第7回	テーマ：応用的な株価決定モデル① 一定成長 DDM			
第8回	テーマ：応用的な株価決定モデル② 株価マネージメントとインサイダー情報			
第9回	テーマ：リスク管理① リスクの定量化。「リスクって悪いものなの？」			
第10回	テーマ：リスク管理② リスクの定量化。「リスクの大きさをどう測定するのか？」			
第11回	テーマ：リスク管理③ ポートフォリオの期待収益率とリスクの定量化。			
第12回	テーマ：リスク管理④ 証券の収益率の相関係数とポートフォリオ			
第13回	テーマ：リスク管理⑤ 不確実性下の投資決定行動と2パラメータアプローチ			
第14回	テーマ：リスク管理⑥ 最小分散ポートフォリオと最適ポートフォリオ			
第15回	テーマ：リスク管理⑦ CAPM の考え方			
第16回	定期試験			
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』（第3版）、2011年			
参考文献・資料	ボディ・マートン『現代ファイナンス論』（原著第2版）ピアソン桐原、2011年（著者はノーベル賞受賞者）			
成績評価の方法	期末試験60%、課題(確認問題)30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。			
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)			
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中はいつでも質問に応じる。			
学生へのメッセージ	第13回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方をより重視する。			

科目名	地域経済政策論 (地域の経済政策)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業概要	秋田が抱える課題を考察するとともにアベノミクスの地方創生法に活路を見出す			
到達目標	地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策を自ら考える			
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと			
履修条件	地域に関心を有していること			
授業計画				
第1回	地域経済の活性化方策～日本経済の行方と地方経済			
第2回	産業構造転換と地域経済～浜松に見る地域の産業政策			
第3回	地域経済と産業インフラ整備 (1) ～東北地方の鉄道・港湾・空港・高速道路			
第4回	地域経済と産業インフラ整備 (2) ～東北地方の知的インフラ・大学			
第5回	第平成の市町村合併と地域経済の変容～道州制・地方分権・地方税制			
第6回	産官学連携とインキュベーション～地域経済の再生に大学の果たした役割			
第7回	マイケル・ポーターの産業クラスター論			
第8回	創造化時代・知識経済への転換と秋田の産業振興策			
第9回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術			
第10回	秋田の地域政策・都市政策			
第11回	増田レポートの衝撃～秋田は生き残れるのか			
第12回	地方創生法の概要			
第13回	国家戦略特区			
第14回	地域成長支援ファンドとハンズオン投資～地方の選択			
第15回	秋田の成長戦略とは			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献・資料	追って連絡します			
成績評価の方法	期中のレポート (40%) および期末試験の結果 (60%) を総合して判断します。			
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)			
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日			
学生へのメッセージ	秋田を元気にするために何が必要かを一緒に学びましょう			

科目名	経済学史 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 □必修 □選択
英文表記	The History of Economic Thoughts I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	しまだ こうや	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	嶋田 耕也	修得単位	2単位
授業のテーマ	古典学派から新古典派へ		
授業概要	アダム・スミスの経済学とは何か。それを引き継いだリカード、マルクスは何を発展させたのか。そして新古典派は、スミスの何を受け継ぎ、何を放棄したのか。		
到達目標	学説によって社会の見方が変化するのを理解する。		
授業時間外の学習	日頃の現実的な経済問題が経済学説に直結しています。学説史は皆さんの現実的な経済への関心によって理解が進みます。		
履修条件	経済学史IIも履修することが望ましい。		
授業計画			
第1回	経済学全体の大きな流れ		
第2回	アダム・スミス 経済学の父		
第3回	アダム・スミスと重商主義		
第4回	アダム・スミスの経済理論		
第5回	リカードの経済理論		
第6回	マルクスの経済理論		
第7回	マルクスの資本論		
第8回	新古典学派 ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー		
第9回	効用価値学説と限界革命		
第10回	市場の経済学 1		
第11回	市場の経済学 2		
第12回	市場の経済学 3		
第13回	市場の経済学 4		
第14回	市場の経済学 5		
第15回	ケインズの登場		
第16回	定期試験		
テキスト	中村達也・新村聡・八木紀一郎・井上義朗(2001)『経済学の歴史』有斐閣を薦める。		
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、レポート提出(30%)		
成績評価基準	新入生: 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 在学生: 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	水曜日に来訪してください。		
学生へのメッセージ	18世紀の経済学者アダム・スミスとその継承者を理解しよう。		

科目名	人的資源管理論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Human Resource Management	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	い ちよんみん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	李 廷珉	修得単位	2 単位
授業のテーマ	人材マネジメントー企業はどんな人材を必要としているか		
授業概要	この講義では、道具・制度・資格（就活で言うと、何とか書き方とかなんとかやり方とかという）などのいわば道具万能論的な考え方は人材の成長に結びつきにくいものとする。それよりもこの講義で重視したいのは、道具などを考える前に知っておかなければならない基礎的な考え方、つまり経営という視点と人という視点である。現場の企業担当者が就活生の面接試験で聞きたいと考えるのはこの二つ以外にないといっても過言ではない。だから、我々は企業担当者の聞き方までをも考えて戦略的に答える必要がある。私に興味があるかないかではなく、その企業は将来的に成長するのか破滅するのかについて、私たちが自ら判断する。この講義は、したがって、就職活動をかなり意識して講義を進行することになる。		
到達目標	この講義を受講し就職活動に活かそう！		
授業時間外の学習	1. 新聞、その他の経済誌、何れかのうち、一つを選び、継続して読んでいく習慣をつけて下さい。 2. 暇を見つけては、図書館へ行き情報を収集し、先生方の研究室へ行き議論を仕掛けて下さい。		
履修条件	現代経済入門、日本経済論、経営学基礎論、経営管理論、経営戦略論を受講することが望ましい。		
授業計画			
第1回	人材マネジメントの考え方		
第2回	人材マネジメントの活動		
第3回	人的資源の獲得		
第4回	経営戦略と人材育成		
第5回	リーダー人材の育成		
第6回	人材評価の考え方		
第7回	評価の公平性		
第8回	人材の処遇の与え方・考え方		
第9回	インセンティブ制度の設計		
第10回	人材フローの考え方		
第11回	内部労働市場		
第12回	人材の尊重（稲盛和夫他）		
第13回	雇用の外部化		
第14回	非正規従業員の人材マネジメント		
第15回	雇用構造の変化と企業の競争力		
第16回	定期試験		
テキスト	講義資料を配布する		
参考文献・資料	守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫、2011年。 小野豊明『経営学入門ー教養としての経営学』マネジメント社、1989年。		
成績評価の方法	【平常点（25%）、レポート（25%）、定期試験（50%）】 上記評価項目を基にして総合的に評価する。		
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30、毎週金曜日 13:00～14:30		
学生へのメッセージ	経営はどの組織体においてもその運営や管理のために必ず必要な考え方です。この授業を受講すれば、社会における企業・組織の問題、その中で働く人間の問題、さらにはそれらの相互関係の問題などに関する理解を深めることが出来ます。		

科目名	サービス・マーケティング論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Service Marketing	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 秀頭	修得単位	2単位	
授業のテーマ	サービス・マーケティングに関する基礎知識を理解する。			
授業概要	私たちの生活は、次第にモノの流通からコトの流通へと変化していています。その流通を促進させるためにマーケティング手法が考えられてきましたが、コトのマーケティングは目に見えないものを流通させるため、特性に違いがあります。その特性を理解し、コトのマーケティングの手法を学んでいきます。			
到達目標	サービスに関する特殊性の理解とそのマーケティングに関する基礎知識の獲得			
授業時間外の学習	日常生活の中でサービスを意識し、考えるようにしてください。			
履修条件	マーケティング基礎論を履修済みであることを前提に講義を進めていきます。			
授業計画				
第1回	ガイダンス（サービス・マーケティングの基礎）			
第2回	顧客経験マネジメントの枠組み			
第3回	情報化社会のマーケティング			
第4回	サービス行為の計画			
第5回	サービス環境のデザイン			
第6回	人的要素の活用			
第7回	サービス顧客の行動			
第8回	サービスの価格設定			
第9回	双方向型サービスのプロモーション			
第10回	サービス品質の保証			
第11回	顧客サービスとそのリカバリー			
第12回	サービス調査			
第13回	サービス・マーケティングの戦略策定			
第14回	サービス需要への対応			
第15回	サービスと文化			
第16回	定期試験			
テキスト	フィスク／グローブ／ジョン『サービス・マーケティング入門』（法政大学出版局）			
参考文献・資料	適宜プリントを配布します。			
成績評価の方法	<p>【小テスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数規定に満たない場合は原則として評価の対象としません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・就職活動や公共交通機関の運休等でやむを得ず欠席する場合は、エビデンスと共に欠席届を提出した場合のみ考慮します。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 			

	・レポート課題は授業内に指示します。
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30・金曜日 14:40～16:10 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
学生への メッセージ	コトのマーケティングに関する基礎知識を取り上げていきます。 この講義を修得すれば、サービスそのものが理解できるようになります。サービスに携わりたい多くの学生の受講を期待します。

科目名	簿記入門Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	くにい のりお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	國井 法夫	修得単位	4 単位
授業のテーマ	簿記入門Ⅰに続き、日商簿記検定試験2級取得をめざす。		
授業概要	11月の簿記検定試験で3級を確実に取得するとともに2級取得をめざして授業を進めていきます。		
到達目標	2級商業簿記を完成させる。		
授業時間外の学習	課題として、問題演習をしていただきます。		
履修条件	欠席しないこと。		
授業計画			
第1回	株式会社会計の基本(1)	第17回	特殊商品売買(1)
第2回	簿記検定3級取得のための問題演習(1)	第18回	特殊商品売買(2)
第3回	株式会社会計の基本(2)	第19回	特殊商品売買(3)
第4回	簿記検定3級取得のための問題演習(2)	第20回	本支店会計(1)
第5回	取引に関する記帳	第21回	本支店会計(2)
第6回	簿記検定3級取得のための問題演習(3)	第22回	本支店会計(3)
第7回	社債・その他の取引(1)	第23回	帳簿組織(1)
第8回	簿記検定3級取得のための問題演習(4)	第24回	帳簿組織(2)
第9回	社債・その他の取引(2)	第25回	帳簿組織(3)
第10回	簿記検定3級取得のための問題演習(5)	第26回	伝票会計
第11回	決算整理事項(1)	第27回	日商簿記2・3級模擬試験(1)
第12回	簿記検定3級取得のための問題演習(6)	第28回	日商簿記2・3級模擬試験(2)
第13回	決算整理事項(2)	第29回	日商簿記2・3級模擬試験(3)
第14回	簿記検定3級取得のための問題演習(7)	第30回	日商簿記2・3級模擬試験(4)
第15回	財務諸表の作成(1)	第31回	後期定期試験
第16回	財務諸表の作成(2)	第32回	
テキスト	滝澤みなみ著『すっきりわかる日商簿記2級商業簿記第7版』、問題プリント		
参考文献・資料	特になし。		
成績評価の方法	テスト(60%)・レポート提出(10%)・授業態度(30%)等で総合的に評価する。		
成績評価基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	水・木曜日の4時間目		
学生へのメッセージ	欠席をしない。真面目に授業を受けてください。		

科目名	スポーツ管理論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Sports Management	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	鈴木 秀頭	修得単位	2単位
授業のテーマ	スポーツ関連組織や施設におけるマネジメントに関する基礎知識を学びます。		
授業概要	スポーツを管理するということは、ビジネスの素養からチームビルディングやオペレーションまで多岐にわたる内容になります。基礎的な理論を習得し、実践に活用できる形を学びます。		
到達目標	スポーツビジネスからチームメイクまでスポーツの経営を捉えることができる。		
授業時間外の学習	リーダーシップを積極的に学ぶようにしてください。		
履修条件	経営学における組織論を理解していることを前提に講義を進めていきます。		
授業計画			
第1回	ガイダンス（スポーツ管理論の基礎知識）		
第2回	スポーツ組織の仕事		
第3回	スポーツ市場のメカニズム		
第4回	スポーツビジネスの発展		
第5回	スポーツビジネスの組織化		
第6回	スポーツビジネス環境		
第7回	スポーツ組織のコントロールシステム		
第8回	スポーツマーケティング①		
第9回	スポーツマーケティング②		
第10回	スポーツプロダクト		
第11回	スポーツサービス		
第12回	チームメイキング		
第13回	コーチング		
第14回	スポーツゲームプロデュース		
第15回	スポーツとメディア		
第16回	定期試験		
テキスト	山下秋二・原田宗彦『スポーツマネジメント』（大修館書店）		
参考文献・資料	広瀬一郎『スポーツ・マネジメント入門』（東洋経済）		
成績評価の方法	<p>【小テスト（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は原則として評価の対象としません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・就職活動や公共交通機関の運休等でやむを得ず欠席する場合は、エビデンスと共に欠席届を提出した場合のみ考慮します。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内に指示します。 		

成績評価基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	毎週 火曜日13：00～14：30・金曜日14：40～16：10 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
学生への メッセージ	スポーツに興味を持ち、組織やリーダーシップについても興味を持てるようにしてください。

科目名	人間行動学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済 学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Human Behavioral Science	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	たきざわ じゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	瀧澤 純	修得単位	2単位
授業のテーマ	人の行動に関連する学問を学び、それらに共通している方法論を身につける。		
授業概要	授業の第6回までは講義を行う。第7回目以降は5人前後のグループを組み、人間行動学の研究法を学ぶ。第11回以降はグループで1つ研究案を考え、全員の前で発表する。		
到達目標	人間行動学の研究例と研究法について理解できるようになる。また、理解した知識を使い、日常にある人間行動を調べるための研究案を考えることができるようになる。		
授業時間外の学習	日頃の生活で、人間行動がどんな要素によって変化しているのかを考えること。また、発表の準備や練習を行うために、グループで授業時間外に集まることが必要になることがある。		
履修条件	人間に興味があることが望ましい。また、グループでの話し合いで自分の意見を話し、他者の意見を尊重できることが望ましい。		
授業計画			
第1回	人間行動学を利用した職業、行動とは何か		
第2回	人間行動学の全体像、研究のマナー、研究を体験する		
第3回	第2回で体験した研究の結果発表 人間行動学の例：①人間工学		
第4回	人間行動学の例：②文化人類学 ③言語学		
第5回	人間行動学の例：④行動政治学 ⑤行動経済学		
第6回	人間行動学の例：⑥行動地理学 ⑦犯罪行動学		
第7回	人間行動学の研究法を学ぶ①：探索型の研究法		
第8回	人間行動学の研究法を学ぶ②：観察法		
第9回	人間行動学の研究法を学ぶ③：調査法（面接法と質問紙法）		
第10回	人間行動学の研究法を学ぶ④：比較する視点、場面設定		
第11回	グループ学習①：研究案を考える		
第12回	グループ学習②：研究案を改善する、発表の練習		
第13回	グループ学習③：研究案を発表する① 講義：資料の検索と引用		
第14回	グループ学習④：研究案を発表する② 講義：図表の作り方		
第15回	授業のまとめ：各研究法の利点と欠点		
第16回	定期試験		
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献・資料	授業中に指示する。		
成績評価の方法	平常点（授業態度、提出用プリント）を40%、授業中の発表を20%、期末試験を40%として評価する。		
成績評価基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	月曜日の3時限（13:00から14:30）、金曜日の2時限（10:40から12:10）とする。		
学生へのメッセージ	授業の計画および授業の内容は状況に応じて変更することがあります。授業中に変更やお知らせをします ので、授業へ積極的に参加してください。		

科目名	地球環境学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			全学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Environmental Sciences	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	村中 孝司	修得単位	2単位
授業のテーマ	我々人類が直面している地球環境問題・生物多様性問題について、人間社会の視点から学ぶ。		
授業概要	2011年、世界人口は70億人を突破した。一方、地球上の資源には限りがある。私たち人類はその限りある資源の中で生きていかななくてはならない。講義では、地球環境問題、生物多様性、農業問題など、人間生活や社会に密接に関わりのある環境問題について紹介する。		
到達目標	人間社会の発展と地球環境の保全の両立をどのように考えていけばよいか。		
授業時間外の学習	地球環境問題、生物多様性問題について、日頃からよく考え、新しい情報を入手しておくこと。		
履修条件	特になし。なお、高等学校の地理歴史、公民、生物、化学などに登場した地球環境問題、公害問題、農業・食糧問題、生物多様性の問題を復習しておくこと。		
授業計画			
第1回	ガイダンス	豊かさと環境問題	
第2回	公害と環境問題の歴史	産業革命と工業化、公害、大気と水	
第3回	地球温暖化	地球温暖化の原因と影響、フィードバックループ	
第4回	オゾン層破壊	オゾン層の生成と消失、フロン類、人体や自然界への影響	
第5回	酸性雨・酸性霧	pH、酸性雨の原因と影響	
第6回	水質汚濁と化学物質汚染	富栄養化、農薬・除草剤、重金属類、海洋汚染、生物濃縮	
第7回	砂漠化と森林破壊	農業形態のあり方の変化による土地の劣化、過放牧、過耕作	
第8回	生物多様性	生物多様性とは何か、生物多様性を脅かす4つの要因	
第9回	生態系サービス	生態系サービスの4つの要素	
第10回	環境の修復と環境アセスメント	自然再生、保護と保全	
第11回	環境価値の評価	環境の経済的価値、仮想評価法	
第12回	エネルギー問題	化石燃料エネルギー、自然エネルギー・原子力	
第13回	循環型社会の構築	里山の利用、3Rとゴミ問題、ライフサイクルアセスメント	
第14回	世界人口と食料問題	食料自給率、フードマイレージ	
第15回	世界自然遺産と自然公園	保護と開発	
第16回	定期試験		
テキスト	植田和弘・大塚直『環境と社会』放送大学		
参考文献・資料	御代川貴久夫『環境科学の基礎（改訂版）』培風館		
成績評価の方法	試験（75%）、レポート（課題）（25%）		
成績評価基準	新入生：秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 在学生：優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）		
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00、金曜日 11：00～12：00		
学生へのメッセージ	環境問題を知ること・理解することは、私たちが生きていくためそのものです。		

科目名	金融機関論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	The theory of FIMs	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	しんようくみあい やまもとしゆん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	信用組合 山本 俊	修得単位	2単位
授業のテーマ	金融機関の社会的な役割を、情報生産の観点から学習する。		
授業概要	金融機関の情報生産活動に注目し、情報の非対称性に起因する金融機関の本質的な役割を学ぶ。例年、信用組合様よりご協力を頂き、実務家視点に立った実践的な講義も実施している。多くの受講生の参加を期待する。		
到達目標	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を社会的な視点から理解できるようになること。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	ミクロ経済学Ⅱと現代ファイナンス論Ⅰ・Ⅱを履修済みか、または同時履修して欲しい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第1回	テーマ：金融機関の役割。その本質は「あなたのことを最も良く理解しているのは誰」という質問に集約されている。		
第2回	テーマ：日本の金融機関の現状 金融機関の定義と金融業の産業組織、銀行の貸借対照表と損益計算書		
第3回	テーマ：銀行の情報生産活動とは何か？ 人の心の裡は、人の〇〇に映し出される。		
第4回	テーマ：信用組合講師による連携授業① 昨年度の主な講義テーマ「金融機関で働くということ」		
第5回	テーマ：信用組合講師による連携授業② 昨年度の主な講義テーマ「信用組合が提供する目には見えない商品」		
第6回	テーマ：信用組合講師による連携授業③ 昨年度の主な講義テーマ「信用組合の地域社会における役割」		
第7回	テーマ：銀行の情報生産活動① モニタリング、スクリーニング、情報の非対称性		
第8回	テーマ：銀行の情報生産活動② 情報の再利用可能性、規模の経済性		
第9回	テーマ：銀行の情報生産活動③ 平均費用曲線と銀行間合併の経済学的根拠		
第10回	テーマ：情報の非対称性と信用割当 逆選択		
第11回	テーマ：銀行業発達史① 鎌倉時代から終戦まで、		
第12回	テーマ：銀行業発達史② 戦後日本の金融制度の特徴、利益相反、メインバンク制度		
第13回	テーマ：銀行預金とデリバリーチャンネル 店舗網やATMは重要か？		
第14回	テーマ：部分準備制度と信用創造機能。		
第15回	テーマ：銀行の市場規律。バンク・ラン、預金保険制度、自己資本比率規制。		
第16回	定期試験		
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』（第3版）、2011年		
参考文献・資料	藤波大三郎『はじめて学ぶ銀行論』創成社、2012年（丁寧で分かりやすく、新しい内容も含んでいる）		
成績評価の方法	期末試験60%、課題(確認問題)30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。		
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中はいつでも質問に応じる。		
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の社会的な役割と金融機関の情報生産の側面を理解しておくことは有用である。		

科目名	地域づくり論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Regional Economy	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期■後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	わが国の新たな輸出産業は「日本の文化」だといわれる。世界が注目するクール・ジャパンとは何か？ 地方創生法の施行は、従来の地域づくりにとはどのように変わっていくのかを考察します。			
授業概要	成熟化した日本経済とクール・ジャパン			
到達目標	地方創生法による地域の再生。自分に何ができるか、可能性を探る。			
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと			
履修条件	地域に関心を有していること			
授業計画				
第1回	地域とは何か～地域政策の変遷			
第2回	地域協働とコミュニティ再生（1）～江戸時代の割地と川端（かばた）を事例として			
第3回	地域協働とコミュニティ再生（2）～沖縄国頭村の共同店舗と道の駅			
第4回	世界的な潮流としてのソーシャルビジネス（社会起業）			
第5回	欧州のソーシャルビジネスを支えるソーシャルファイナンス（意思のあるお金）			
第6回	我が国のソーシャルビジネス（社会起業）事例			
第7回	我が国のソーシャルビジネスを支える新たなファイナンス～クラウド・ファインディング			
第8回	インバウンド観光と地方経済の活性化～クール・ジャパン			
第9回	ソーシャル・インパクト投資～ARUN合同会社			
第10回	TPPと地方農業の革新～新潟のICT農業			
第11回	震災復興と地域協働～コミュニティの再生			
第12回	中心市街地の活性化と秋田～イオンモール計画			
第13回	秋田におけるNPO・コミュニティビジネス・スモールビジネス			
第14回	秋田の地域づくりとは～秋田のNPO・コミュニティ・ビジネスが抱える問題			
第15回	地方創生法の概要～国家戦略特区とハンズオン投資			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献・資料	追って連絡します			
成績評価の方法	期中のレポート（40%）および期末試験（60%）の結果を総合して判断します。			
成績評価基準	新入生：秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 在学生：優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）			
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日			
学生へのメッセージ	高齢化が進む中でコミュニティを再生するとともに地域経済を活性化する方策を学びます。			

科目名	生活と政治Ⅱ	科目分類	□専門科目群（第1グループ） ■総合科目群（第2グループ）
			全 学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Political Science Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	しかたに ゆういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	鹿谷 雄一	修得単位	2単位
授業のテーマ	国内外の政治行政の変化を理解する。		
授業概要	政治学の入門となる講義です。国内外の政治のしくみや政治行政をめぐる諸問題について説明するとともに、政治が存在する単位について理解を深めていきます。また、諸問題を解決する方策としての政策についても、出来事や事柄を踏まえて自分なりに考えるなかで理解を深めていきます。		
到達目標	政治のしくみとその変化について理解し、政治と行政の関係、国と地方の関係などを説明することができる。		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、小課題か小テストのいずれかを実施しますので、その準備として予習・復習をしてください。 ・政治や社会に関する新聞記事やニュースに常に関心を払うこと。 		
履修条件	特にありません。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	民主主義とは何か		
第3回	権力のコントロール		
第4回	政治のしくみ：国会		
第5回	政治のしくみ：内閣		
第6回	政治のしくみ：諸外国との比較		
第7回	官僚という職業		
第8回	官僚の役割		
第9回	政策の形成①		
第10回	政策の形成②		
第11回	地方自治		
第12回	地方分権改革		
第13回	政治改革と行政改革		
第14回	国の枠を超える政治		
第15回	世界政治の潮流		
第16回	定期試験		
テキスト	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め』（有斐閣）		
参考文献・資料	川出良枝・谷口将紀編『政治学』（東京大学出版会）、北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学』（有斐閣）のほか、適宜紹介します。		
成績評価の方法	期末試験（50%）、課題レポート（20%）、小課題・小テスト（30%、講義への貢献度を含む）として総合的に評価します。 ※課題レポートは、必ずしも正解がない発想力を問う内容で、学期の半ばに課題を発表します。 ※講義への貢献度は、授業内での発表や取組姿勢であり、受講マナーを守れないと減点されます。		
成績評価基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:40～16:10・水曜日 14:40～16:10		
学生へのメッセージ	新聞やニュースなどから社会が抱えている諸問題について広く関心を払うよう努めてください。各種試験対策にも役立つよう工夫します。		

科目名	人権	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			法律学科 □必修 ■選択
			観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Human right	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	わたべ たかあき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	渡部 高明	修得単位	4単位
授業のテーマ	人権の意義と憲法条文および憲法判例の理解をテーマとします。		
授業概要	憲法の意義、日本国憲法の成立と展開、人権規定の内容と判例を、とりわけ戦後の憲法学をリードしてきた芦部信喜教授のテキストをもちいて理解することで、現代人権論の基本的考え方を学びます。		
到達目標	憲法の存在意義と人権の必要性、具体的な裁判事例を理解することができます。		
授業時間外の学習	まずテキストを1回の授業分は必ず読んでくること。そして、単に講義を聴くだけでなく、自ら事件や裁判例を通して、人権の諸問題と大切さを考えましょう。従って、具体的な判例へのレポートを求めることがあります。また、毎日の新聞に目を通すことをすすめます。		
履修条件	憲法入門、統治機構を履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	オリエンテーション 憲法の学び方	第17回	思想良心の自由
第2回	憲法学とは	第18回	信教の自由
第3回	憲法と立憲主義 I	第19回	学問の自由
第4回	憲法と立憲主義 II	第20回	表現の自由 I
第5回	明治憲法の特徴	第21回	表現の自由 II
第6回	日本国憲法の成立過程	第22回	表現の自由 III
第7回	基本的人権の原理	第23回	集会結社の自由・通信の秘密
第8回	人権の内容	第24回	職業選択・居住移転の自由
第9回	人権の享有主体	第25回	財産権の保障
第10回	人権と公共の福祉	第26回	人身の自由 I
第11回	特別な法律関係における人権	第27回	人身の自由 II
第12回	私人間の人権保障	第28回	国務請求権と参政権
第13回	包括的基本権	第29回	生存権
第14回	法の下での平等 I	第30回	教育を受ける権利
第15回	法の下での平等 II	第31回	労働基本権
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第六版』(岩波書店)		
参考文献・資料	『憲法判例百選 I・II』(有斐閣) 『公務員試験憲法判例』(実務教育出版)		
成績評価の方法	試験(80%)、レポート(10%)、毎回のコメントシート(10%)		
成績評価の基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週水曜日と木曜日 15:00～16:00		
学生へのメッセージ	憲法の重要性と現実性を考えていきましょう。		

科目名	観光経済学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			観光学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	The Economics of Tourism	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位
授業のテーマ	地域観光分析と統計		
授業概要	地域観光を経済学的に分析するためにはどのように行えばよいのか。秋田観光と京都観光を題材にして、Excelを用いた統計の基礎的な知識、図表の作成方法を学び、プレゼンテーションをゴールとしたグループワークも行いながら、国内観光に関するデータの読む方・見方とその経済学的意味を理解することが本講義の目的である。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国内観光に関するデータの読む方・見方とその経済学的意味が理解できるようになる。 ・Excelを用いた統計の基礎的な知識、図表の作成方法が理解できるようになる。 ・地域観光の経済学的分析とそのプレゼンテーションが行えるようになる。 		
授業時間外の学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。		
履修条件	社会調査の仕方、プレゼンテーション入門を履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	観光の経済的側面		
第3回	地域所得の概念と観光		
第4回	県内総生産、県民総生産と観光		
第5回	観光の経済波及効果		
第6回	地域観光分析と統計		
第7回	図表づくりの基本的作法とExcelの操作法		
第8回	棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、表の作り方		
第9回	中間試験		
第10回	グループワーク：プレゼンテーションの準備①		
第11回	グループワーク：プレゼンテーションの準備②		
第12回	グループワーク：プレゼンテーションの準備③		
第13回	グループワーク：プレゼンテーションのリハーサル		
第14回	グループワーク：プレゼンテーション①		
第15回	グループワーク：プレゼンテーション②		
第16回	定期試験		
テキスト	半澤誠司・濱田博之・近藤章夫・武者忠彦編著(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版を薦める。		
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。		
成績評価の方法	<p>【定期試験(30%)、中間試験(20%)、平常点(50%)】</p> <p>上記評価項目を基にして、総合的に成績評価を判断する。</p> <p>①出席回数規定に満たない場合、原則として評価の対象としない。</p> <p>②出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とする。</p> <p>③講義中に無許可で退出した場合、欠席扱いとする。</p> <p>④就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合、証明書とともに、欠席届を提出したときにのみ考慮の対象とする。</p>		

	<p>⑤講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行うとともに、プレゼンテーションをゴールとしたグループワークも行う。その結果は平常点をカウントする上での材料とする。</p> <p>⑥プレゼンテーションを行わなかった場合、原則として評価の対象としない</p>
成績評価の基準	優(80～100点)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(0～59点)
オフィスアワー	<p>火曜日 9:00～10:30</p> <p>金曜日 13:00～14:30</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約すること。</p>
学生へのメッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明する。なお、講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、厳格な処置を取る。

科目名	福祉と文学	科目分類	□専門科目郡 (第1グループ) ■総合科目郡 (第2グループ)	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Welfare and Literature	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	橋元 志保	修得単位	単位	
授業のテーマ	「利他の心」「無私の精神」に関する様々な評論や史伝を読み解き、福祉の歴史について学びながら、「本当の幸福とは何か」について考察していきましょう。			
授業概要	日本における福祉の原点は、聖徳太子が創設した悲田院に始まると云われています。仏教と深く結びついた福祉という思想は、近代に入るとキリスト教人道主義の下で発展し、現代まで存続する日本赤十字社や様々な社会活動となっていきました。しかし、「人がひとを救う」という行為は無論、近代以前にも存在しており、秋田をはじめとする東北でも天災や飢饉と闘い、私財を投げ打って、困窮する人々を救った人物は数多くいたのです。本講義では、福祉の歴史について学びながら、「無私の精神」に関する様々な評論や史伝を読み解き、「本当の幸福とは何か」について考察していきます。			
到達目標	様々な評論や史伝の読解を通じて、深い思考力や、それを表現する力を涵養することができる。			
授業時間外の学習	1. 授業で取り上げる評論や史伝を、指定された頁までは必ず読んで来てください。 2. 難解な語句や漢字等の意味は、予め調べておきましょう。			
履修条件	「日本の文学」または「文章の読み方」を受講し、単位を修得していることが望ましい。ただ初学者にもわかりやすく進めていくので、気軽に参加してください。			
授業計画				
第1回	福祉という思想－仏教伝来と悲田院－			
第2回	福祉という思想－「利他の心」とは何か－			
第3回	福祉という思想－中村 元『慈悲』『人生を考える』を読むⅠ－			
第4回	福祉という思想－中村 元『慈悲』『人生を考える』を読むⅡ－			
第5回	東北の聖農たち－飢饉との闘いと農業への情熱－			
第6回	ふるさと秋田の聖農たち－『村守る、命かけても 聖農 高橋正作伝』Ⅰ－			
第7回	ふるさと秋田の聖農たち－『村守る、命かけても 聖農 高橋正作伝』Ⅱ－			
第8回	人道主義と博愛－国際赤十字の設立とアンリ・デュナン－			
第9回	人道主義と博愛－博愛社と日本赤十字社－			
第10回	愛は近きより－マザー・テレサの生涯と思想			
第11回	愛は近きより－マザー・テレサと「死を待つ人の家」			
第12回	緒方貞子と人道援助－国際紛争と難民－			
第13回	緒方貞子と人道援助－難民に尊厳を－			
第14回	ハンセン病患者の心の救済と神谷美恵子－『生きがいについて』を読むⅠ－			
第15回	ハンセン病患者の心の救済と神谷美恵子－『生きがいについて』を読むⅡ－			
第16回	定期試験			
テキスト	資料を配布します。中村元『人生を考える』（青土社 2000年） 神谷美恵子『生きがいについて』（みすず書房 2004年） 他			
参考文献・資料	中村 元『慈悲』（講談社学術文庫 2010年） 梁瀬均『村守る、命かけても 聖農 高橋正作伝』（秋田魁新報社 2007年） 中井俊巳『マザー・テレサ 愛の花束』（PHP 研究所 2007年） 小山靖史『緒方貞子 戦争が終わらないこの世界で』（日本放送協会出版 2014年） 他			
成績評価の方法	講義内の発表（15%）、課題の提出（25%）、試験（60%）の総合評価とします。			

成績評価の基準	新入生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 在學生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 ※これ以外の時間帯は事前に予約してください。
学生へのメッセージ	福祉やボランティアの原点や、その歴史について一緒に学びましょう。心洗われる話や慈愛に満ちた人々の逸話を、数多く取り上げます。

科目名	観光福祉論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			法律学科 □必修 ■選択
			観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Tourism Welfare	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	井上 寛	修得単位	2単位
授業のテーマ	Tourism for All.		
授業概要	わが国そして秋田では超高齢社会を迎えており、観光の場面においてもバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進が求められています。観光の場面におけるこれらの現状や具体的な課題と新たな取り組みを実践的に学びます。		
到達目標	観光分野のバリアフリー化について理解し、実践・応用できる。		
授業時間外の学習	日常生活の中で、バリアフリー・ユニバーサルデザインを意識して生活してください。		
履修条件	基本から学びますので履修条件は特に設けませんが、観光業界(ホテル・旅行業・鉄道・航空)はもちろんのこと公務員(行政・警察)への就職を考えている学生にも受講をお勧めします。		
授業計画			
第1回	観光福祉論で学ぶこと		
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
第3回	外出運動とヨーロッパ車いす一人旅		
第4回	国際障害者年とボランティア		
第5回	障害者主体の活動		
第6回	旅行会社の取り組み		
第7回	宿泊施設の取り組み		
第8回	福祉車両と自動車の運転		
第9回	パラリンピックと五体不満足		
第10回	海外からの影響		
第11回	バリアフリー法の制定と観光立国		
第12回	観光ホストとしての高齢者		
第13回	バリアフリーツアーセンター		
第14回	旅行から取り残された人たち		
第15回	観光福祉における課題		
第16回	定期試験		
テキスト	毎時間、講義ノート・資料を配布します		
参考文献・資料	講義内で適宜指示します（図書館に参考文献あり）		
成績評価の方法	①定期試験(50%)・・・知識を問う問題と論述問題を課します ②レポート課題(20%)・・・パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。 ③小レポート(15%)・・・毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答す姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。 ④出席態度(15%)・・・遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、欠席扱いとします。また就職活動や公共交通機関の運休・遅延による欠席は、根拠書類の提出があった場合のみ考慮する場合があります。		
成績評価基準	優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	月曜日2時限(13:00-14:30)・金曜日2時限(10:40-12:10) ※これ以外の場合、事前連絡願います。		
学生へのメッセージ	私たちの生活している場面でも、バリアフリー、ユニバーサルデザインに対応しているものはたくさんあります。関心を持って生活してください。		